



ユニセフと地球の子どもたち¹⁹

http://www.unicef.or.jp

ラオス

Lao People's
Democratic
Republic

子どもから子どもへ
大切なメッセージ

東南アジアにあるラオスは、ベトナム、中国、ミャンマー、タイ、カンボジアにかこまれた国だ。四十年ほど前、ベトナムで大きな戦争があった。ラオスもまきこまれたんだ。そのとき、不発弾が北部の地方にいまもこっていて、子どもが被害にあっている。人形劇を通して、子どもを守る方法や思いやりの大切さをつたえている女の子、ヴァンソンさん（十五歳）の話聞いてみよう。



形劇の活動を紹介しよう。

わたしは北部の山あいの町にくらしてある中学生です。わたしの町に、ユニセフの支援で「子ども文化センター」がつけられました。

ここには、八歳から十八歳まで、千人近い子どもたちがきています。みんな、自分の興味があることを楽しんでいます。歌や踊り、太鼓、人形劇、織物と、いろいろなクラスがあります。わたしが参加している、ふたつの人

伝統や文化を引き継ぐ役も

このセンターの目的はふたつあります。ひとつは、この地方に昔から受けつがれてきた伝統や文化を子どもたちにつたえていくこと。ふたつめは、子どもが元気

生活の知識や不発弾のこわさ 人形劇でわかりやすく伝える

マにした内容で、わかりやすく、楽しんで見てもらえま



手づくりの人形を手にするラオスの子どもたち ©日本ユニセフ協会

わたしたちの住む地方には、いまも昔の戦争で落とされた不発弾がのこっています。さわってけがをしたり、命をうしなったりする子どももいます。だから人形劇では、不発弾がどういうものなのか、そのこわさを知らせています。そして、見つけたら、さ

わらないで大人に知らせることや、不発弾のために手足をうしなってしまう子どもをいじめたり、差別したりしないようにとつたえています。わがわがという元気がわいてきます。

掲載は一週おき。次は二十九日の予定です

神奈川県平塚市の崇善小学校

ユニセフと
いっしょに

全国には、日本ユニセフ協会に協力するボランティアの私たちの集まりが二十

自分たちで集めた品物の売上金を寄付

平塚市の崇善小学校の五年生が、平塚市向けのフリーマ

るボランティアの私たちの集まりが二十

ひとりあたりの国民総所得



「世界子供白書2004」から

世界のすべての子どもは「権利」をもち、「子どもの権利条約」に守られています。

子どもの権利条約

第十二条【意見を表す権利】は、子どもは自分にかかわることについて、自由

に意見をあらわす権利をもっていて、その意見は、子どもの子どもが元気に成長するために大切なことをつたえたい、とねがうヴァンソンさんの思いは、着実にほかの子どもたちにつたわり、広がっています。

もっと活動の範囲を広げたい

劇の内容をみんなで勉強しているうちに、正しい知識をもつことの大切さや、子どもを守るために「子どもの権利」について知ることが大切なんだとわかるようになってきました。

募金はどこへ送られるの？

を、日本ユニセフ協会がとりまとめて、アメリカのニューヨークにあるユニセフ本部に送っています。

ユニセフ本部では、世界各地のユニセフ本部で、みなさんの募金

もっと知りたーい！

学校でしているユニセフ募金はどこへ送られるの？
(埼玉県・奥野葉月・六年)

3つの基準によって157の国と地域へ

三つの基準があります。「子どもの人口」「五歳未満児の死亡率」「その国の国民ひとりあたりの所得」です。その結果にもとづいて、百五十七の国と地域で活動しているユニセフの現地事務所へ送られ、世界の子どもた

